募集概要

防災教育チャレンジプランでは、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートします。

そのプランの準備・実践に当たって発生する経費を支援し、実現に向けた防災教育チャレンジプランアドバイザーによる従来・オンラインでのアドバイスなどの支援を行います。

応募の中から選ばれたプランは、活動計画について前年度の活動報告会で発表、さらに実践した内容について、交流フォーラム（中間報告会）と活動報告会で発表していただきます。

活動報告会においては、優秀な実践活動に対して防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を授与します。

これからの時代の防災教育として、オンラインやオンデマンドを活用した活動など、様々なチャレンジをサポートし、その成果はホームページなどで幅広く公開します。

【サポートの内容】
- ●プランの実践にかかる経費の提供／上限 30 万円（査定による）
  ※活動・予算計画書の提出及び団体名義の口座が必要となります。
- ●交流フォーラム（中間報告会）・活動報告会発表者への交通・宿泊費の支給。（1名分×3回分）
- ●プランの実現に向けて、下記のサポート主体が対面・オンライン問わず助言や現地指導等の支援を行います。
- ●防災活動の手法・事例の収集と活動情報の発信ができる各種webツールを提供します。

【サポート主体】
- ●防災教育チャレンジプランアドバイザー
  - ・防災教育チャレンジプラン実行委員
  - ・防災科学技術研究所研究員
  - ・サポーター（過去の実践団体）
  - ・その他防災教育専門家等
- ●防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局

【表彰】
- ●活動プロセス及び成果に対して審査を行い、優秀な実践活動に対して、防災教育大賞・防災教育優秀賞・防災教育特別賞を決定し、 表彰状と盾を授与いたします。
- ●防災教育チャレンジプラン「サポーター」として認定いたします。

応募資格

・防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）
・採用された場合は、現地開催・オンライン開催問わず実践団体決定会、中間報告会、活動報告会の計3回の会合に出席できること。
・オンライン開催となった場合、参加可能なインターネット環境(通信回線、機材、アプリケーション等)を用意できること。

応募部門（プランの対象別）

A. 保育園・幼稚園等の部　B. 小学校低学年の部　C. 小学校高学年の部
D. 中学校の部　E. 高等学校の部　F. 大学・一般の部

応募方法

ホームページ（http://www.bosai-study.net）より事前登録後、応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上ホームページへアップロードしてください。

応募締め切り　2021年11月19日(金)

審査

「防災教育チャレンジプラン実行委員会」の選考により決定します。
審査の結果は、事務局よりメールにて応募団体へご連絡します。（応募締め切り後1ヶ月程度）

［ 審査の観点 ］
- ・プラン実施により地域防災力の向上に貢献できること
- ・応募された防災教育プランの有効性・新規性
- ・活動の中に新しいチャレンジの要素が含まれているもの

［ 次年度チャレンジプランの発表 ］
- ・当年度の活動報告会の会場にて、次年度チャレンジプランの計画を発表いただきます。

応募先・問い合わせ先

防災教育チャレンジプラン実行委員会事務局
E-mail：cpinfo2865@bosai-study.net　／　FAX：03-3556-8217

河川基金　公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。

Disaster Management Education Challenge Plan
防災教育チャレンジプランの流れ

1 募集
応募締切2021年11月19日(金)
教育・社会福祉施設／教育委員会／NPO／地域団体／個人

2 審査
2022年1月

3 決定発表
2022年2月12日（土）
2021年度防災教育チャレンジプラン活動報告会
開催（オンライン開催）
〇2022年度チャレンジプラン（活動計画）発表
〇2021年度チャレンジプラン成果発表・表彰
（防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定）
〇学校や団体等、防災教育関係者の情報交換等

4 実践
2022年4月～2023年3月
2022年度
防災教育チャレンジプランの実践
〇チャレンジプランへのサポート
プラン進行や教材作成にあたってのアイディア提供・資材提供等
〇アドバイザー等の紹介・派遣等

5 中間報告会
2022年10月（予定）
2022年度防災教育交流フォーラム
開催（オンライン開催を予定）
〇2022年度チャレンジプラン中間報告
〇交流会・意見交換会
〇学校や団体等、防災教育関係者の情報交換・事例紹介等

6 活動報告会
2023年2月（予定）
2022年度防災教育チャレンジプラン活動報告会
開催（オンライン開催を予定）
〇2022年度チャレンジプラン成果発表・表彰
（防災教育大賞、優秀賞、特別賞の決定）
〇防災教育チャレンジプランサポーターに認定
〇2023年度チャレンジプラン発表

2021年度防災教育チャレンジプラン実行委員会 委員一覧

委員長
林　春男　国立研究開発法人防災科学技術研究所　理事長
池田　真幸　国立研究開発法人防災科学技術研究所災害過程研究部門　特別技術員
市川　啓一　株式会社レスキューナウ危機管理研究所　代表取締役
井上　浩一　防災ネットワークプラン　代表
鍵屋　一　跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科　教授
金田　義行　香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長
地域強靭化研究センター長/学長特別補佐・特任教授
甲　健太　特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク　事務局
木村　玲欧　兵庫県立大学環境人間学部・大学院環境人間学研究科　教授
国崎　信江　危機管理教育研究所　危機管理アドバイザー
栗田　暢之　認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード　代表理事
酒井　慎一　東京大学大学院 情報学環・学際情報学府　教授
佐藤　公治　南三陸町立歌津中学校　主幹教諭
佐藤　健　東北大学災害科学国際研究所　防災実践推進部門 防災教育実践学分野　教授
澤野　次郎　災害救援ボランティア推進委員会　委員長
諏訪　清二　防災学習アドバイザー・コラボレーター
中川　和之　株式会社時事通信社　解説委員
中村　一樹　国立研究開発法人　防災科学技術研究所
イノベーション共創本部 共創推進室　室長
平田　直　国立研究開発法人 防災科学技術研究所 首都圏レジリエンス研究推進センター
センター長 兼 東京大学地震研究所特任研究員
福和　伸夫　名古屋大学 減災連携研究センター　センター教授
舩木　伸江　神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科　教授
舟生　岳夫　セコム株式会社ＩＳ研究所リスクマネジメントＧ　主務研究員
松尾　知純　防災ゲート・パートナーズ　代表
南島　正重　東京都立両国高等学校附属中学校　主幹教諭
村山　猛　千葉県教育庁企画管理部 教育総務課 障害者雇用推進班　主幹
五島　政一　国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部　総括研究官
小長井 彰祐　国土交通省 水管理・国土保全局防災課　防災企画官
田村　一郎　消防庁国民保護・防災部 防災課　地域防災室長
福田　和樹　文部科学省研究開発局地震・防災研究課　防災科学技術推進室長
村上　威夫　内閣府政策統括官（防災担当）付　参事官（普及啓発・連携担当）
森本　晋也　文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室
安全教育調査官

（2021年8月1日現在、所属役職別50音順、敬称略）

2022年度 防災教育チャレンジプラン募集

オンライン型やオンデマンド型のチャレンジも歓迎です。

Disaster Management Education Challenge Plan

防災教育チャレンジプランとは？

全国の地域や学校で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や、質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートする取組です。

防災教育交流フォーラム
2021年10月24日（日）
2021年11月 6日（土）
オンラインにて開催

防災教育チャレンジプランは、2021年度防災教育交流フォーラムの一部をぼうさいこくたい2021と連携して開催します。

ぼうさいこくたいとは？
ご家族連れから専門家まで
幅広い方が防災を学べる
日本最大級の防災イベントです。

応募締め切りは 2021年11月19日（金）



2021年度防災教育チャレンジプラン活動報告会

2022年2月12日（土）：　オンライン開催

2021年度防災教育チャレンジプラン実践団体による成果発表と、新たに採択された2022年度防災教育チャレンジプラン実践団体による１年間の活動プランの発表を行います。
ご来場の際にはホームページ（http://www.bosai-study.net）にて事前登録をお願いします。

主　催：防災教育チャレンジプラン実行委員会、内閣府（防災担当）、国立研究開発法人 防災科学技術研究所
共　催：一般社団法人防災教育普及協会
後　援：消防庁、文部科学省、国土交通省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本赤十字社、全国都道府県教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、防災未来賞ぼうさい甲子園事務局

www.bosai-study.net

防災教育チャレンジプラン
Disaster Management Education Challenge Plan

実践活動のご紹介
詳しくは、ホームページにて www.bosai-study.net

１年の流れ（イメージ）

2月（最終報告会）　4月　6月　8月　11月（中間報告会）　12月　2月（最終報告会）　3月

応募・決定
- 応募締め切り11月頃（応募資格・方法・審査の観点は裏面をご確認ください。）

・活動計画の発表（活動報告会にて）
- 活動計画の発表に向けた発表資料の準備

準備期間
- 活動報告会での助言を受けて、活動計画の見直し
- プランの具体化
- 意見交換会開催
- 高齢者災害時生活支援学習
- かまど調査研究
- 材料・器具の準備

活動期間

活動準備
- かまど調査研究
- 高齢者災害時生活支援学習
- 意見交換会開催
- プランの具体化
- 実行委員も協力

製作交流活動①
- ①土砂掘削 ②基礎コンクリート制作 ③レンガ積み ④座板製作 ⑤仕上げ作業
- サポーターも協力
- 学校と地域の繋がり強化

製作交流活動②
- ①土砂掘削 ②基礎コンクリート制作 ③レンガ積み ④座板製作 ⑤仕上げ作業
- 高齢者との交流、知恵や知識の継承

製作交流活動③
- ①土砂掘削 ②基礎コンクリート制作 ③レンガ積み ④座板製作 ⑤仕上げ作業

- 土砂災害学習
- かまど施工方法研究
- 気象実験実演練習
- ●活動成果発表（夏季）
- ●活動成果発表（秋季）
- かまど完成交流

・中間成果の発表（交流フォーラムにて）

活動期間

製作交流活動④
- ①土砂掘削 ②基礎コンクリート制作 ③レンガ積み ④座板製作 ⑤仕上げ作業
- 異年齢交流で協力の大切さや相互の豊かな心を培う

活動普及継続計画
- 継続・普及のための出版活動
- 成果発表地域交流
- 炊き出し実演・展示
- かまど模型制作活動




- 最終成果の発表に向けた発表資料の準備
- HPへテキストの公開

・最終成果の発表（活動報告会にて）

サポーター認定
- 成果品の提出

― 成果 ―

手作り活動（製作のプロセス）をすることによって、人と人の絆、つながりが強まった。
その結果、災害に対する想像力や減災に対する想像力を豊かにし、たくましく生きる力を身につけた。

●その後 継続して活動

例（A）　○○工業高校

プランの対象者：高校生、小学生（高学年）保護者・PTA、地域住民・社会人、一般・高齢者等
プランの実施形態：従来型

かまどベンチづくりで子どもからお年寄りまで参加し、防災減災に欠かせない「人のつながり」をつくり被災後の心のケアにつなげると共に、学校や行政との連携を研究し災害に強い地域を作ることを目的とした事例

例（B）　○○防災会

教育対象者：地域住民・防災関係者
プランの実施形態：従来＋オンライン型

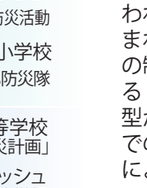
保護者・自治体・地域住民に対する「子どもに関する防災意識」向上の呼びかけと教育モデルの提供を行うために、ワークショップに向けテキスト案を作成し、中間報告会において披露し、防災教育チャレンジプラン実行委員会の助言を参考にテキストの最終原稿を作成した事例

準備期間
- プランの具体化
- 地元NPOとの連携
- 事務局へ相談
- 防災に取り組む団体から専門性を提供してもらう
- 涉外・打ち合わせ
- テキスト原稿入稿
- NPO・ボランティア・市 計約１５回
- ワークショップのチラシ作成

活動期間

活動準備
- 涉外・打ち合わせ
- 地元NPOとの連携
- 事務局へ相談
- 防災に取り組む団体から専門性を提供してもらう
- プランの具体化
- テキスト原稿入稿
- NPO・ボランティア・市 計約１５回
- ワークショップのチラシ作成

開催準備
- 参加者の募集
- ワークショップ広報
- ポータルサイトを作成し参加者の募集
- HP での公開
- 現地開催とオンライン開催により幅広い対象者同士での交流を実現
- 機材の準備



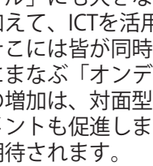
- ●ワークショップ開催（第１回）
- ●ワークショップ開催（第２回）

開催準備
- 参加者の募集
- 募集方法・プログラムを改良
- 中間報告会での助言を受け、
- 前回同様プラス FM ラジオ

- ●ワークショップ開催（第３回）

開催準備
- 参加者の募集

- ●ワークショップ開催（第４回）
- ●ワークショップ開催（第５回）



- HPへテキストの公開

― 成果 ―

適切に広報した結果、子どもを保育園に預ける前の、乳幼児の母親層のニーズが高いことが再確認された。
実践内容そのものはユニークな内容ではないが、お母さんたちにとって身近な環境での防災教育推進に寄与していけるものとなった。

●その後 自立して活動展開

例（C）　NPO 法人○○

プランの実施形態：オンデマンド＋オンライン型

新しい発想のチャレンジをお待ちしています

※報告会には、報告書（中間/最終）、発表資料（中間/最終）、展示資料[任意]、配布資料[任意]を準備していただきます。

過去の受賞団体と活動の様子

防災教育大賞　岐阜県立大垣特別支援学校
守ろう自分の命、家族の命　～高める防災力の輪～




学校・家庭・地域、それぞれの連携不足という課題に対し、“自助・共助の力で災害から命を守る”というスローガンを掲げ、趣向を凝らした各種プログラムを精力的にこなした点、コロナ禍の中でも、工夫を凝らした防災訓練をはじめ、幅広い対象者と共に、各種取組を進めた点が高く評価されました。

防災教育優秀賞　北海道標津高等学校
標津高校防災協働プロジェクト

ガールスカウト東京都第１７２団
ガールスカウトのチカラで防災女子を増やそう！

防災教育特別賞　特定非営利活動法人　i-care kids 京都
医療的ケア児と家族のための防災チャレンジ

新居浜市立金栄小学校
金栄小学校災害タイムライン
～My タイムラインの実行と避難率向上を目指せ～

呉工業高等専門学校
3Dマップによる小中学校向け防災教育

‘20

防災教育大賞　目黒星美学園中学高等学校
地域に広げたい「わくわく防災減災」
―長期的視点を持った防災教育を通じ、自ら考え生き残り・生き延びられる人材を育てる―




学校の日常に防災を溶け込ませ、様々な教科を防災に結び付け、生徒の防災意識を高める防災教育に取り組んだ点、他の団体へ横展開できる防災教育の具体的なモデルプランを実践した点等が高く評価されました。

防災教育優秀賞　岡崎市立常磐東小学校
地域・学校・関係諸機関が連携した防災活動

京都市立正親小学校
守れ正親　こども防災隊

防災教育特別賞　高知県立大方高等学校
高校生が作る「地区防災計画」

ミラクルウィッシュ
さんだ女子防災部

UR都市機構（尾山台団地自治会）
～安心・安全　団地でサバイバル（在宅避難）～

‘19

新型コロナ禍の防災教育－新たなまなび・続けるまなびのチャレンジ

2021年の日本は新型コロナ感染症の流行によって、かつてない毎日を送っています。新型感染症も、私たちの生活に大きな影響をもたらす災害の一つです。災害に立ち向かうためには、私たちひとりひとりの防災力を高め、強くなれる社会を目指し、実現することが必要です。その意味では新型コロナ禍をのりこえる社会の実現にむけたチャレンジが必要です。

防災教育チャレンジプランでは2005年から、次の世代を担う子供達を中心とした家庭や地域の防災に関わる能力の向上を図ることにより社会全体の防災力を向上させることを使命として、防災教育の新しい試み、アイディアによる活動を支援してきました。

新型コロナ禍は「新しい生活様式」や「新たな日常」を生み出したと言われています。そのひとつに、「まなびのスタイル」にも大きな変化が生まれました。これまで主流だった「対面」型に加えて、ICTを活用する従来の制約を超えた「オンライン」型の普及です。そこには皆が同時に参加する「リアル」型、事前に用意された教材を個別にまなぶ「オンデマンド」型があります。そしてオンデマンド型の取組みの増加は、対面型のまなびでの視聴覚教材を活用したカリキュラムマネジメントも促進します。それによってより深いまなび、より多様な気づきが期待されます。

	対面	オンライン
同時「なま」	従来型	リアル
事前収録	視聴覚教材	オンデマンド

2022年度の防災教育チャレンジプランでは、新型コロナ禍を新たな「まなびのきっかけ」とするチャレンジを積極的に募集します。内容としての新型コロナ禍を選ぶだけでなく、新型コロナ禍がきっかけとして生まれた「まなびのスタイル」を活用したオンライン型やオンデマンド型のチャレンジも歓迎です。

みなさんのチャレンジを お待ちしております‼